

川の再生交流会 2025 報告書

令和7年2月8日(土)
埼玉会館

第1部 全体会

<3頁~27頁>

■基調講演 <3頁~10頁>

「生物多様性異変と私たちの生活
～ 森・里・川・海のつながりの大切さ」

国立環境研究所

生物多様性領域生態リスク評価・対策研究室長 五箇 公一氏

■事例発表 <11頁~19頁>

「川越女子高校生物部の活動紹介」
埼玉県立川越女子高等学校 生物部

■リバサポアワード 授賞式 <20頁~27頁>

第2部 ポスターセッション

<28頁~34頁>

第3部 分科会

<35頁~66頁>

アンケート

<67頁~70頁>



埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」

主催:埼玉県
協力:埼玉県河川環境団体連絡協議会



第1部 全体会

<基調講演> 「生物多様性異変と私たちの生活

～ 森・里・川・海のつながりの大切さ」

五箇 公一氏

国立環境研究所生態リスク評価・対策研究室長。京都大学大学院修士課程修了。宇部興産株式会社入社。博士号取得後、現研究所に転じる。専門は保全生態学、農薬科学、ダニ学。特に外来種の生態リスク評価と対策に関する研究をリードし、政策提言や「ヒアリDNA検出キット」を開発するなど、実践的な対策の策定にも寄与。その実績と成果は、国内外で高く評価されている。環境省や各種官公庁の委員会メンバーとしても活動し、政策立案に貢献している。また、テレビや新聞などマスコミを通じて環境科学の普及啓発に力を入れている。主な著書には『クワガタムシが語る生物多様性』（集英社）や『これからの時代を生き抜くための生物学入門』（辰巳出版）などがある。



<事例発表> 「川越女子高校生物部の活動紹介」

埼玉県立川越女子高等学校 生物部

部員は1年生11名、2年生3名、3年生4名の計18名。準絶滅危惧種「ヌカエビ」の生息調査や保護などに取り組んでおり、埼玉県生態系保護協会や地元企業、大学とも連携している。今年はNHKのテレビやラジオで部の活動が取り上げられ、外来種問題の注目度アップに貢献した。また、県内の高校10校で結成されているチームアライグマに参加し、外来生物であるクビアカツヤカミキリの調査を行い、川越女子高校独自にカワリヌマエビ属のエビの研究も続けている。科学展、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)発表会、SSH関東近県発表会、日本生態系学会にも参加。さらに、外来種希少種かるたを作成し、冬休み科学教室や小学生向けイベントで実施している。



<リバサポアワード授賞式>

みんなで選ぶ「リバサポ アワード」では、川の保全・共生に向けた活動の活性化に向け、川での優れた活動や川の魅力を伝える画像を県民の皆さんに選んでいただき、広く発信するものです。川の再生交流会では、活動部門の県民(団体)部門、企業部門からそれぞれ上位2団体を紹介し、記念の楯が贈呈されました。

また、川の共生・保全に貢献した長年にわたる個人、団体、事業者の活動に対して贈る、「川の国貢献賞」では、選考委員会で選定した2団体について表彰を行いました。



当日は、会場参加241名、ウェブ参加6名 合計247名が参加しました。

2025/3/14

ATTENTION!

本講演のスライドおよびトーク映像の
無断配信・転送・転載はご遠慮ください
著作権・肖像権に抵触する場合があります

大人の事情をお察しの上、ご協力のほどお願い致します！



1



2

1

2025/3/14

国立環境研究所
National Institute for
Environmental Studies

茨城県つくば市(学園都市)



常勤職員 200名
契約職員 800名

- 地球温暖化対策
- 生物多様性保全
- PM2.5など公害対策

地球・地域の環境問題に取り組んでいます

3



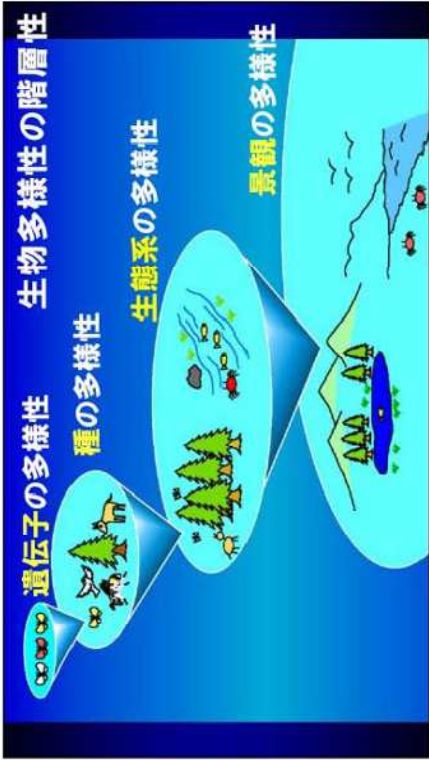
4

2

2025/3/14



5



6

3

2025/3/14

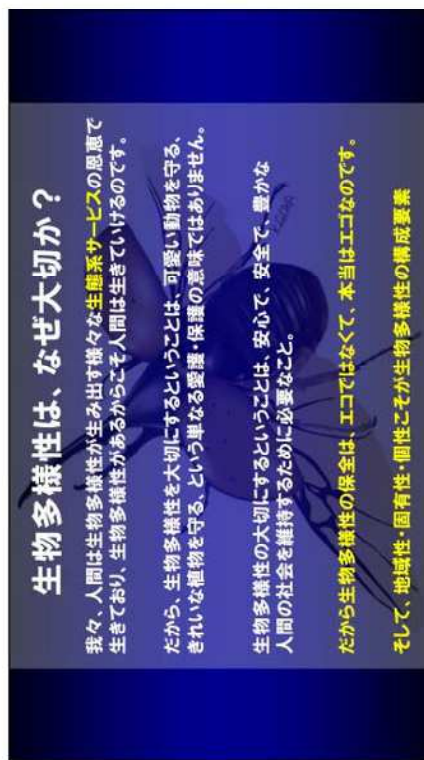
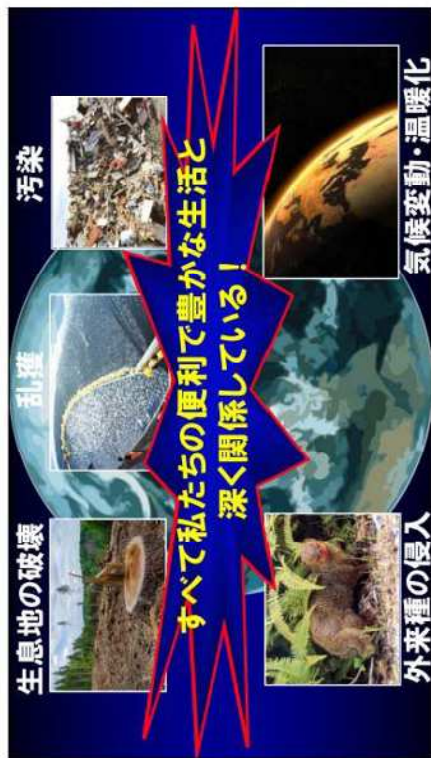


7

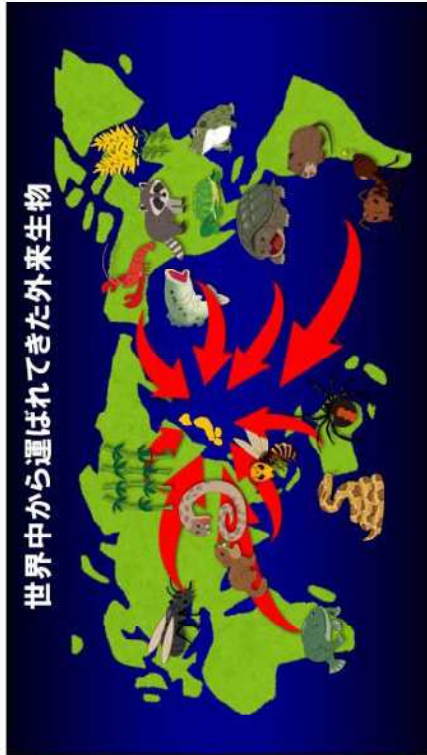


8

4



2025/3/14



13



14

7

2025/3/14



15



16

8

2025/3/14

グローバルゼーションは外来生物の侵入を加速する

多くの外来生物が人間の物質移送に便乗して世界旅行を楽しんでいる…?

アリ類
Ants

クワガタ類
Soldiers

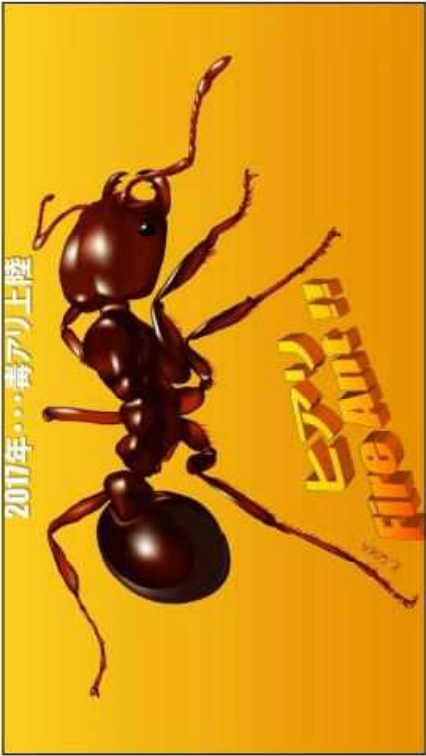
カビ類
Insect, bacteria, virus

ダニ類
Mites and ticks

軟体動物
Mollusks



17



18

9

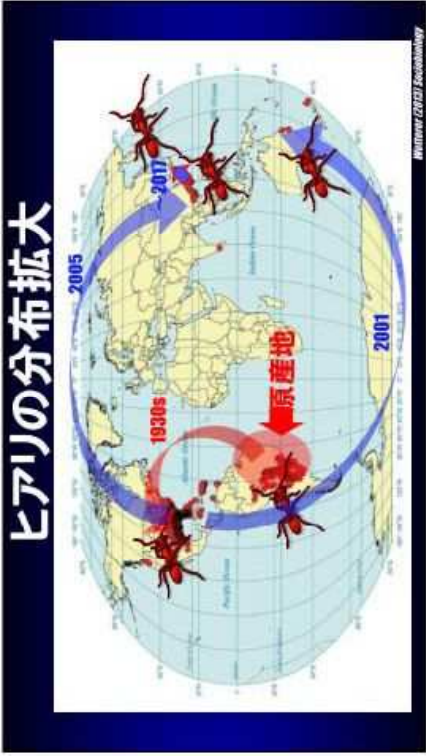
2025/3/14

とにかく強い攻撃性と毒性！
激的なアマゾンという生態環境で進化...

アフリカキンシロに注意！
刺されるとめっちゃ痛い！
(蜂)



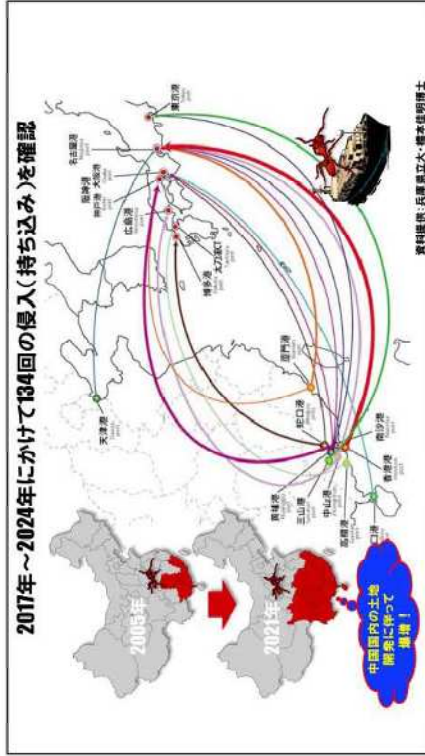
19



20

10

2025/3/14



21

国立環境研究所・外来アリ類対策研究チーム

- 早期発見・早期防除で確実に根絶！
- 全国の自治体・民間企業と協働！

微災対

微小危険生物特設災害対策本部

22

11

2025/3/14

終わりにぎ侵略者との闘い

次から次に外来生物はやってくる…
見つけ次第防除するしかない

グローバル経済に依存する日本の宿命

23

グローバル化がもたらす究極の侵入リスク

感染症

それ、厚労省の仕事。
環境省は関係ないっしょ…

いいえ、感染症にも生物多様性が深く関わっているのです…

24

12

2025/3/14



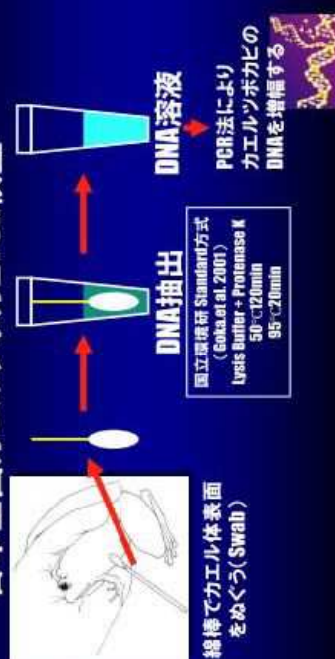
25

2025/3/14



27

国立環境研究所
日本全国カエルツボカビPCR検査



26

カエルツボカビ研究でわかった大事なこと

病原体・寄生生物にも本来の生息地がある

・カエルツボカビはちともと日本に棲んでいた

病原体・寄生物と宿主の間には共進化の歴史

・カエルツボカビは日本のカエルと共生していた

「解理の歪曲」の症候群「ためた」の症候群

・医学・薬理学だけでなく生物学・生態学も重要

13

14

2025/3/14

自然共生社会に向けて私たちが進むべき経済
資源搾取型グローバルゼーシヨンからの脱却
ローカリゼーシヨンと持続的社會への
パラダイムシフト

地産地消

Do It Locally

31

16

2025/3/14

疫病退散の靈獣クダベ
越中・立山佐東

ウィルスの襲来

人間が生物多様性を侵食した結果
起こるべくして起こった自然の摂理

29

気候変動や新興感染症のリスクを抑制し、
人間がこの地球上で生き延びていくために……

生物多様性の破壊はもうやめた方がいい
自然と共生する社会を作った方がいい

生物多様性保全は人間社会持続のための

安全保障

30

15

川越女子高校生物部の活動紹介

埼玉県立川越女子高等学校生物部

2025年2月8日川の再生交流会 埼玉会館

1

目次

1. 調査研究

2. チームアライグマの活動

3. 啓発活動・ボランティア

4. 外来種希少種かるた

3

生物部って
何をしていますか？

2

1. 調査研究

荒川水系の外来エビと在来エビの分布調査
準絶滅危惧種ヌカエビの保全

4

埼玉に生息するエビの紹介

埼玉県の在来の淡水エビ

又カエビ

テナガエビ (大型)

スジエビ(肉食)

外来工ビ

ミナミヌマエビは、静岡以西にいるエビで、埼玉県には生息しない
ヤマトヌマエビは、千葉以南にいるエビで、埼玉県には生息しない

成体の体長が2～4 cm程のエビに着目

カワリヌマエビ属

シナヌマエビ

Neocaridina spp.

ヌマエビ属

又カエビ

Paratyia compressa improvisa

埼玉県レッドデーターブック2008で

絶滅危惧Ⅱ類（準絶滅危惧種）に選定

中国から餌または観賞用として輸入されて広がった外来種



外来エビと在来エビの見分け方【目の付き方】

外来工已



— 80 度未満の角度で
両目が斜めについている

このほか、とげの有無などの特徴があります

写真提供:NHK

在来工匕



約180度の角度で
両目がまっすぐについている

2024年度の調査地点



番号	河川名	調査場所	住所
①	高麗川	車橋周辺	〒357-0212 埼玉県熊谷市井上
②	高麗川	白子橋周辺	〒357-0205 埼玉県熊谷市白子
③	高麗川	諏訪橋周辺	〒350-1257 埼玉県日高市横手
④	高麗川	鹿台橋付近	〒350-1251 埼玉県日高市高麗本郷
⑤	高麗川	天神橋周辺	〒350-1251 埼玉県日高市高麗本郷
⑥	高麗川	巾着田水路（農業用水路）	〒350-1251 埼玉県日高市高麗本郷
⑦	高麗川	獅子岩橋	〒350-1245 埼玉県日高市桑坪
⑧	新河津川	八幡橋	〒350-1115 埼玉県川越市野田町
⑨	荒川	上長瀬	〒360-1305 埼玉県秩父市長瀬町長瀬
⑩	荒川	三ツ又流路	〒350-0846 埼玉県川越市中老校
⑪	和田吉野川	熊谷市江南支所敷地内	〒360-0161 埼玉県熊谷市万吉
⑫	都幾川	新玉川橋周辺	〒355-0312 埼玉県比企郡ときがわ町玉川
⑬	小峰川	かほく運動公園付近	〒350-0807 埼玉県川越市吉田
⑭	黒目川	朝霞第三中学校付近	〒351-0023 埼玉県朝霞市溝沼

9

同定方法

採集した個体をアルコーンにつけて学校に持ち帰り、双眼実体顕微鏡で観察して、とげの有無、とげの数、体長を測定し、写真に撮って記録する



11

捕獲方法

川岸のヨシの根元や藻類がある場所で、手持ち網（約20cm四方）をゆすって捕獲する＝通称 ガサガサ 3人で10分間



10

立正大学でのDNA解析 8月1日～2日

双眼実体顕微鏡での同定が正しいことを確認



12



13

15



14

16

私たちのエビの研究から分かったこと

- ◇高麗川以外には、在来エビが生息していないこと
- ◇外来エビと在来エビの分布は、季節や年ごとに変動があること
- ＝降水量に伴う川の流速の変化が影響している
- ◇在来エビがいる場所は、護岸工事がされておらず、自然の川の環境が守られていること



人工飼育

外来エビは水槽でも繁殖できる

在来エビは水槽で繁殖できない



実験室の水槽 左：ヌカエビ
右：カワリヌマエビ属

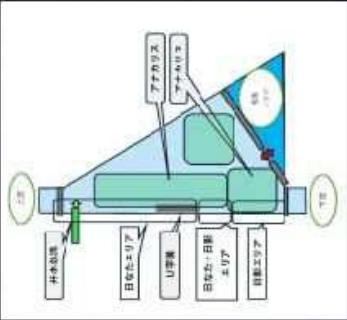
17

TOPPAN朝霞工場のビオトープ

ビオトープを整備し維持に10年の実績がある。

埼玉県希少種であるホトケドジョウやキンブナを保護している。

大きさが約15m×25mほどの区域に水域がある。川からの流入はなく地下水をくみ上げて水源としている。



資料提供：TOPPANグループ

19

ビオトープでのヌカエビの保全開始

日本生態系協会から企業の紹介を頂き、ヌカエビプロジェクトとして 企業・日本生態系協会・学校が連携することになった。TOPPAN朝霞工場内にあるビオトープに5月にヌカエビを放流し、保全活動がスタートした。



8月の放流の様子



生徒が制作したイラスト

18

今年の成果 ビオトープでの繁殖に成功した！

6月(1か月後)に体長5mmの稚エビが確認された



8月に数を増やしていることを確認できた



8月に産卵個体から生まれるゾエア(幼生個体)体長2mmの撮影に成功した



20

日本生態学会の高校生ポスター発表会
2024年3月 横浜国立大学





関東近県SSH発表会
2024年3月

21



川越女子高校 越谷北高校 熊谷西高校 所沢北高校 大宮高校 松山高校
蕨高校 坂戸西高校 所沢西高校 越ヶ谷高校

2013年に発足 県内の生物系部活動が集まって活動する研究グループ
現在 活動は11年目
今年度は約60名が所属(1,2年生)
高校生が主体的に生物多様性保全を軸に活動をしています

23

2. チームアライグマの活動

22

生徒が主体となって行う合同ミーティング 合同調査(クビアカツヤカミキリ調査)



年4回のミーティング



クビアカツヤカミキリ
左:オス 右:メス
サクラやモモの樹木を
食い荒らす
特定外来生物



24



25



26



27



7月 「目指せ!いきもの博士」小学生の生きもの探しと観察のお手伝い
各高校ごとに外来生物についてのレクチャー
(チームアライグマとして6校の参加) 埼玉県総合教育センター江南支所



29

4. 外来種希少種かるた

31



30



32

外来種	希少種
アメリカザリガニ	アオヤンマ
アライグマ	アカハライモリ
アレチウリ	キタミソウ
オオクチバス	シマヘビ
クビアカツヤカミキリ	ホトケドジョウ
コイ	ミゾゴイ
ジャンボタニシ	ミドリシジミ
セイタカアワダチソウ	ミナミメダカ
ブルーギル	ムサシトミヨ
ベタリアデントウ	
ミシシippアカミガメ	

現在20種のカルタがある。今後もバージョンアップ予定

33

最後に

◇私たちは、生態系を守っていかねばならないという意識持って行動しています。

◇私たちにできることは、多くの人に活動を広めて知ってもらうことと考えています。

◇小中学生に外来生物の問題を中心に生態系を保全するための啓発活動を続けていきたいと考えています。

35

文化祭や川越市主催の冬休み科学などで、小学生や中学生にやってもらっています。外来生物問題や埼玉県の希少種に興味を持ってもらえることを目的としています。



34



SAITAMA / さいたま市
みんなで選ぶ

リバサポアワード

授賞式

令和7年2月8日

1



SAITAMA / さいたま市

リバサポアワード

活動部門

【 県民（団体部門） 】

2



活動部門 県民（団体）部門

県内で活動する団体、個人が令和5年11月から令和6年10月
末までの間に行った、特色があり、共感と呼ぶ、川の共生・保全
に貢献した県内の河川における活動。





3



Epic Enviro Buddies

『私達の街を守ってくれる彩湖・道満グリーンパーク （調節池）の美しい自然に感謝し、大切な場所の未来を 守る為に活動をしている中学生のゴミ拾いサークル』



2023年10月小学生ゴミ拾いサクル結成。
初期は小学生の仲間グループで活動開始。小さい頃から彩湖・道満グ
リーンパークで田植えや野鳥観察などをして育ち、自然や水質から私たちが
守っているこの場所にずっと出られてきたので、感謝の気持ちをも
てゴミ拾いをするようになりました。現在は、毎2年毎にPRが主催したゴミ拾
いイベントに参加してくれた隣の小学生や幼稚園のお友達も 一緒に活動して
くれています。

【目的】 私達の街を水質から守ってくれる彩湖・道満グリーンパーク（調節
池）の美しい自然に感謝し、大切な場所の未来を守るために活動しています。
【活動】 パーク内のゴミ拾いが基本となりますが、公園内の離れた場所には水
生植物のゴミや野鳥の餌やりでゴミが散乱している場所が多いです。
ゴミの中でなくまじく生きている虫やトカゲ、野鳥たちなどを観察しながら、
まずは楽しく活動することを大切にしています。



4



越谷市カヌー協会

『カヌーを愛する市民によって、水辺環境の改善と安全確保、スポーツ文化の普及、行政や環境団体との連携により水辺を活かした安全で親しみのある街づくり』

令和4年8月10日団体設立後、活動テーマでもある水辺環境の改善と安全確保、スポーツ文化の普及を基本とし、

- 1) 越谷市内の河川（荒川や中川）清掃活動を定期的に実施、水辺の清掃ゴミを拾うことにより水辺の環境改善に取り組む。
- 2) 水辺の安全教室として、しらこぼ水と公園内のプールを利用して、小学生を対象としたカヌー教室やライフジャケットを着用しての安全教室を開催。
- 3) 行政（白岡市等）との連携で新山沼にてカヌーやSUPの体験会を実施。多くの市民の方が参加し、スポーツ文化の普及に努めた。



7



埼玉県生態系保護協会入間支部

『生態系豊かな調節池を目指して』

入間市にある不老川の調節池全体を管轄の飯能市十勝備事務所と長年協議を重ねながら、生態系豊かな環境に転える活動をしています。

- ①調節池の敷地内に、樹木の植栽を1998年から5年間植樹し、その後列りや間伐をしながら豊かな林づくりの作業をしています。
- ②定期的な観察会、特に親子で生き物にふれあう体験を重視しています。
- ③生物調査を年2回ほど行ない、多くの生き物にふれあう体験を重視しています。
- ④希少種の保全体管理（市内からの移殖を含む）により、貴重な昆虫も見られるようになりました。これらを観察会や自然展で発表し、身近でできる「自然書かにする行動」をアピールしています。



8



春日部市カヌー協会

『春日部市 手をつなぐ親の会とコラボ・大落古利根川をカヌーでゴミ拾い』

当協会は、2017年頃から現居会長が個人的にカヌーで川下り（ゴミ拾い等）をはじめ、2020年2月22日関係者が集まり正式に発足した。その後コロナ感染防止で活動を自粛しましたが、2022年から徐々に活動（カヌーで川下り兼ゴミ拾い・親子でカヌー体験教室等）を再開した。カヌー川下りで拾ったゴミ（ペットボトル・アルミ缶・スズ・紙・布その他）を回収後、仕分けする作業が極めて大変で課題でしたが、今年（春日部市手をつなぐ親の会）の皆さん方（約10人）とのコラボにより、スムーズに仕分けされ、大変感謝しております。今後は、コラボに、より、古利根川の環境美化と、漁業にプラスササックゴミ等が流れるのを少しでも減らせるよう継続してまいります。同時に、春日部市カヌー協会だより（定例月2回・4月～9月+a）を継続発行します。



5



上江橋ウォーク&クリーンの会

『長さ日本の上江橋をウォーキングしながら、ごみゼロを目指す。』

さいたま市と川越市の境に架かる上江橋は長さが1610mあり、越谷市の河川の橋としては日本一の長さです。私たちは2019年から、長さ日本一の上江橋と荒川河川敷のクリーン活動を続けてきました。毎年11月にはボランティアの団体や近隣の主婦の会合を招いています。上江橋からは遠く荒川を望め、秋の山や遠く山などの山々が360°見渡せます。上江橋はサイクリングコースになっており、多くの自転車が走り、ジョギングやウォーキングを楽しむ人も増えていきます。日本一の上江橋からの新緑に満足していただけるよう、これからも一つ一つのゴミを拾い捨てます。実施日は毎月末日曜日と火・金のゴミ収集日です。



6



埼玉県立川越女子高等学校 生物部

『準絶滅危惧種ヌカエビの保全活動』

2016年から生物部では埼玉県内の河川で外来種であるカワリマエビの調査を開始し、継続して鹿沼川や新河草川の調査を行っている。鹿沼川の鹿沼橋では、2016年以来本橋と在来種が混在して生息していた場所であったが、2022年8月の調査で、在来種であるヌカエビが一匹も捕獲されなかった。このことに危機感を覚え、在来種がどこに生息しているのかを探した結果、鹿沼橋よりさらに上流の鹿沼、白子橋に在来種のみが生息している場所を特定し、DNA解析で確認した。準絶滅危惧種であるヌカエビを保全するため、(株)TOPPAN朝霞工場に協力していただき、2024年3月に工場内にあるビオトープにヌカエビを移植し、6月には繁殖・成育することを確認した。今後、ビオトープ内にヌカエビが定着できるのかを観察し、保全につなげたいと考えている。



川町誌



しばかわリバサポ

『カヌーを使用した『芝川クリーンアップ作戦』』

2021年7月20日に設立し、2024年で4回目の『芝川クリーンアップ作戦』を実施しました。
過去3回は9～10月の秋に実施していましたが、今年に芝川に新たにすばらしい場所が建設されたため、記念して竣工後すぐ後の夏草の7月14日に実施致しました。夏から住んでいるご近所の方の話しでは、50年ほど前は川が綺麗で魚釣りをして遊んでいたそうです。芝川は『憩いの場所』だった事がわかりました。私たちの地元を流れる芝川を、私たちの力できれいな川に蘇らせ、地域の『憩いの場所』として生まれ変わらせることを目的として、有志で埼玉県「しばかわリバサポ」が誕生しました。カヌークラブ、小中学校～高等学校、各PTA、ロータリークラブ、地元企業等、多種多様な団体で構成された有志団体です。子供から大人まで、1地元を愛する皆で、明るく・楽しく・元気に清掃活動を行っています。



川町誌



特定非営利活動法人 草加市カヌー協会

『水辺環境の改善と安全確保、スポーツ文化の普及、行先や環境団体との連携により水辺を活かした安全で親しみのある街づくりを進める。』

2014年12月、綾瀬川の汚染ごみをカヌーで拾う草加パドラーズを設立した。きっかけは同年3月の草加松原の国体記念大会「おくのぼろの風景展」開催である。観る流れる綾瀬川は長年恒的水質検査でワースト1が続き、名勝の名に恥じるとの思いで本活動を開始した。綾瀬川流域は標高が低く水位変動で流向が変わり、ごみは草加付近に溜まるが、暴雨で増水すると海洋流出する。これを阻止するため活動を年間150日程度実施している。その傍ら、船着き場や護岸の清掃（毎週）、水質検査（月3回）、ごみの統計調査を行うほか、市民対談の体験教室やカヌー大会などのイベント開催を通じて、河川の環境保全や安全に関する意識を高めるなど広域に活動している。なお、国土交通省より河川協力団体の指定を受けたほか、草加市公認の自主水防団を有する。



川町誌



やなせ川いかだラリー実行委員会

『「川の探検隊」柳瀬川に親しみ、河川やその周辺の自然環境に関心を持つとともに、参加者相互の親睦と交流を図る。』

新河岸川と柳瀬川にはさまれ、台風や豪雨などでは度々河川の氾濫に苦しめられた地域です。そんな中でも、積極的に河川に関わっていろいろな住民無縁から「川の学習会」を開催したのが発端です。河川の護岸問題や生態系の復元、時には流出のフェイールドウォークなどを重ね現在に至っています。近年の公共下水道の整備により、雑排水の流入が激しく水質も改善されてきました。今でも、頃から提供された資材を用い水質検査を行っています。現在は、それらを継承しつつ、リバーウォッチングを求む親子参加型の事業として実施しています。今後も、積極的に河川に関わる事業を実施していきたいと思っています。



川町誌



特定非営利活動法人 草加市カヌー協会

『水辺環境の改善と安全確保、スポーツ文化の普及、行政や環境団体との連携により水辺を活かした安全で親しみのある街づくりを進める。』



2014年12月、綾瀬川の浮遊ごみをカヌーで拾う草加パドラーズを設立した。きっかけは同年3月の草加市東部の国指定名勝「おくのほろ道」の風景地、指定である。橋を流れる綾瀬川は長年国の水質改善でコースT1が続き、名勝の名に恥じるとの思いで本活動を開始した。綾瀬川流域は標高が低く基岩変動で流向が変わり、ごみは草加付近に溜まるが、豪雨で増水すると海洋流出する。これを阻止するため活動を年間150日程度実施している。その傍ら、船着場や護岸の清掃（毎週）、水質検査（月3回）、ごみの統計調査を行うほか、市民対象の体験船会やカヌー大会などのイベント開催を通して、河川の水辺保全や安全に資する研鑽に努めるなど広域に活動している。なお、国土交通省より河川協力団体の指定を受けたほか、草加市公部の自主水防団を有する。



可研証

11



やなせ川いかだラリー実行委員会

『「川の探検隊」柳瀬川に親しみ、河川やその周辺の自然環境に関心を持つとともに、参加者相互の親睦と交流を図る。』



新河原川と柳瀬川には生まれ、台所や墓所などでは度々河川の辺りに苦しみられた地域です。そんな中でも、積極的に河川に関わっていかうという住民意識から「川の探検隊」を開催したのが発端です。河川の環境問題や生態系の減少、河川には流出のファールドフオーグなどを重ねる現在に至っています。近年の公営下水道の整備により、雑排水の流入が抑り水質も改善されてきました。今でも、県から提供された資機材を用い水質検査を行ってまいります。現在は、それらを継承しつつ、リバーウォッチングを通して親子参加型の事業として実施しています。今後も、積極的に河川に関わる事業を実施していきたいと思っております。



可研証

12



リバサポアワード

活動部門

【企業部門】



可研証

15



古郡建設株式会社

『川沿いで官民連携で広がりをもせるプロギング』



開始時期と目的：地域環境向上、健康増進、参加者のコミュニケーション活性化のため2021年より年3回開催しています。

内容：Ploggingはスウェーデン語の「拾う」という意味の「Plocka Upp（プロックアップ）」と「ジョギング」「logging（ヨギング）」の2つの言葉を組み合わせた造語です。深谷市内の川沿いを6km走るジョギングコースと、4kmゆっくり走ったり歩いたりするジョギングコース、体力に自信のない方には3kmのウォーキングコースを設定しています。毎回、リバサポ公式イベントとして開催するほか、深谷市や団体・企業などとコラボイベントの開催など、近年はリバサポやプロギングの普及にも力を入れ、自社のみならずこの活動を県内に広めています。



可研証

16



Plus-R

『埼玉県の魚である天然記念物 ムサシトミヨと埼玉県の川の撮影と発信』



【知らない埼玉にもある貴重な水中風景】をテーマに川の水中写真撮影を撮影しています。川を泳ぐことはあっても川の中を泳ぐことはなかなかありません。そんな方々に川の中の水の中を泳ぐ魚と目が合う瞬間、川の中から見上げた魚の姿、そういった特別な瞬間を皆様にシェアできたらいいなと思って活動しています。2024年9月からは特別な許可をいただいて埼玉県の魚でもあるムサシトミヨの撮影も川で行っています。ネットでは水槽の中で泳いでいるムサシトミヨの姿しかみることができませんが、自然の川の中で元気に泳ぎ回れるムサシトミヨの姿を見ることができるといいですね。



17



明治安田生命保険相互会社 埼玉本部

『体験型イベントを通じた水辺とのつながり・環境学習
機会の創出』



2024年10月、地域社会と「川」、中でも未来を担う子どもたちと「川」とのつながり創出に向けて、リバサポが参加企業であるマルキュー株式会社、公益財団法人日本釣連盟と協働で「はじめての子ども釣り体験教室」を北本総合公園にて開催しました。当日は参加50組のご家族が参加され、釣りの楽しさはもちろん、水辺の生態系勉強や釣り場周辺のゴミ拾いを通して環境保全に努めてもらいました。今後も「川」を通じて地域住民と企業サポーターの架け橋となり、より「川」を身近に感じてもらえるような企画を考え、豊かな地域づくりへ貢献していきます。



18

リバサポアワード

活動部門【県民（団体）部門】

受賞者





19



リバサポアワード

活動部門 受賞





Epic Enviro Buddies

『私達の街を守ってくれる彩湖・道満グリーンパーク（調節池）の美しい自然に感謝し、大切な場所の未来を守る為に活動をしている中学生のゴミ拾いサークル』



20



リバサポアワード

活動部門 受賞





埼玉県立川越女子高等学校 生物部

『準絶滅危惧種ヌカエビの保全活動』



21

リバサポアワード

活動部門【企業部門】
受賞者



22



リバサポアワード

活動部門 受賞





Plus-R

『埼玉県の魚である天然記念物
ムサシトミヨと埼玉県の川の撮影と発信』



23



リバサポアワード

活動部門 受賞





明治安田生命保険相互会社 埼玉本部

『体験型イベントを通じた水辺とのつながり・
環境学習機会の創出』



24



リバサポアワード
魅力発信部門

25



魅力発信部門

「埼玉は川イイ！フォトコンテスト」で選定された入選作品12件





26

リバサポアワード
魅力発信部門
受賞写真



SAITAMA / さいたま市

27



リバサポアワード 魅力発信部門 受賞



荒川サイクリングロード
投稿者：panda.to.bicycle



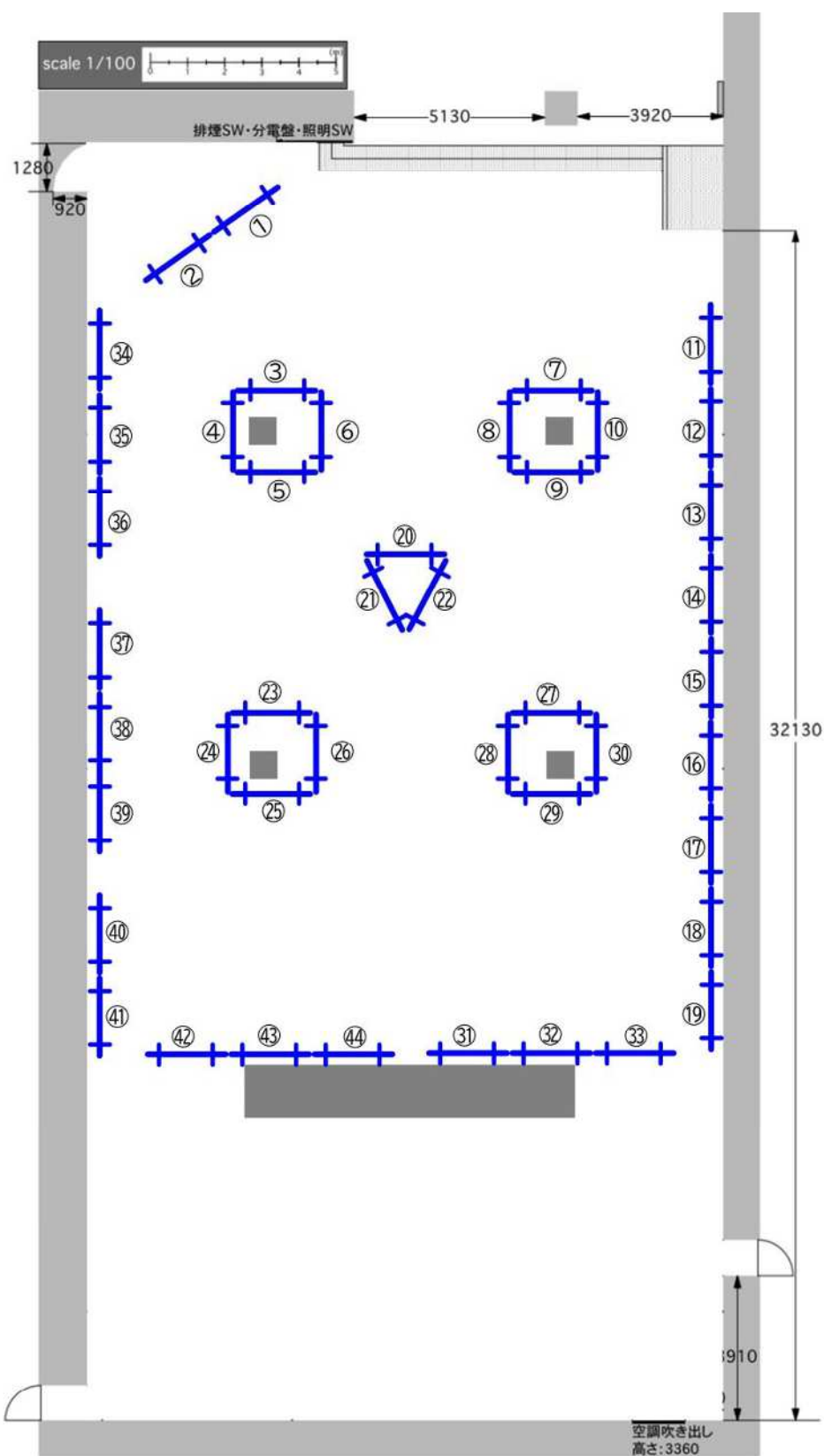


28

第2部 ポスターセッション

■発表団体：川で活動・研究する34の団体・学校・企業・自治体(重複あり)

■会場配置



■発表団体一覧

<<No.順>>

No.	発表団体
①	リバサポアワードとは？ / 活動部門(Epic Enviro Buddies / 春日部市カヌー協会)
②	活動部門(上江橋ウォーク&クリーンの会/越谷市カヌー協会 / 埼玉県生態系保護協会入間支部 / 埼玉県立川越女子高等学校 生物部)
③	活動部門(しばかわリバサポ/特定非営利活動法人 草加市カヌー協会 / やなせ川いかなり実行委員会)
④	活動部門(古郡建設株式会社 / Plus-R / 明治安田生命保険相互会社 埼玉本部)
⑤	魅力発信部門
⑥	魅力発信部門
⑦	魅力発信部門
⑧	川の国貢献賞
⑨	リバサポ・クエスト
⑩	リバサポの紹介
⑪	獨協大学米山ゼミ
⑫	埼玉県環境科学国際センター
⑬	千葉工業大学文化会環境科学研究会
⑭	草加市カヌー協会
⑮	杉戸高等学校理科部
⑯	香川大学創造工学部吉田研究室
⑰	荒川クリーンエイドフォーラム
⑱	荒川夢クラブ
⑲	埼玉県環境科学国際センター
⑳	彩の国環境大学修了生の会
㉑	山室湧水路の清流保全プロジェクト
㉒	城西大学理学部化学科環境生命化学研究室
㉓	城西大学理学部化学科環境生命化学研究室
㉔	城西大学理学部化学科環境生命化学研究室
㉕	川の博物館
㉖	浦和実業学園中学校・高等学校 生物部
㉗	黒目川に親しむ会
㉘	千葉工業大学 分子生態工学研究室
㉙	川越女子高等学校生物部
㉚	ホトケドジョウ調査会
㉛	熊谷市ムサシミヨをまもる会
㉜	シモゾノ学園大宮国際動物専門学校
㉝	栄東中学・高等学校 理科学研究部
㉞	埼玉県環境科学国際センター、国立環境研究所、海辺つくり研究会、国土技術政策総合研究所、神奈川大学、理化学研究所、東京都環境科学研究所
㉟	埼玉県環境科学国際センター
㊱	特定非営利活動法人越谷ふるさとプロジェクト
㊲	新河岸川広域景観づくり連絡会
㊳	荒川流域ネットワーク
㊴	株式会社Symphony Innovations
㊵	「川の日」ワークショップ関東大会実行委員会
㊶	黒目川の景観を考える会
㊷	笹目川の環境を守る会
㊸	戸田の川を考える会
㊹	綾瀬川を愛する会

■発表団体一覧

《五十音順》

No.	発表団体
④④	綾瀬川を愛する会
①⑦	荒川クリーンエイドフォーラム
①⑧	荒川夢クラブ
③⑧	荒川流域ネットワーク
②⑥	浦和実業学園中学校・高等学校 生物部
①⑥	香川大学創造工学部吉田研究室
③⑨	株式会社Symphony Innovations
②⑨	川越女子高等学校生物部
②⑤	川の博物館
④①	「川の日」ワークショップ関東大会実行委員会
③①	熊谷市ムサシミヨをまもる会
②⑦	黒目川に親しむ会
④①	黒目川の景観を考える会
①②	埼玉県環境科学国際センター
①⑨	埼玉県環境科学国際センター
③④	埼玉県環境科学国際センター、国立環境研究所、海辺つくり研究会、 国土技術政策総合研究所、神奈川大学、理化学研究所、東京都環境科学研究所
③⑤	埼玉県環境科学国際センター
②①	彩の国環境大学修了生の会
③③	栄東中学・高等学校 理科学研究部
④②	笹目川の環境を守る会
③②	シモゾノ学園大宮国際動物専門学校
②②	城西大学理学部化学科環境生命化学研究室
②③	城西大学理学部化学科環境生命化学研究室
②④	城西大学理学部化学科環境生命化学研究室
③⑦	新河岸川広域景観づくり連絡会
①⑤	杉戸高等学校理科部
①④	草加市カヌー協会
①③	千葉工業大学文化会環境科学研究会
②⑧	千葉工業大学 分子生態工学研究室
①①	獨協大学米山ゼミ
③⑥	特定非営利活動法人越谷ふるさとプロジェクト
④③	戸田の川を考える会
③①	ホトケドジョウ調査会
②①	山室湧水路の清流保全プロジェクト
①	リバサポアワードとは？ / 活動部門(Epic Enviro Buddies / 春日部市カヌー協会)
②	活動部門(上江橋ウォーク&クリーンの会/越谷市カヌー協会 / 埼玉県生態系保護協会入 間支部 / 埼玉県立川越女子高等学校 生物部)
③	活動部門(しばかわリバサポ/特定非営利活動法人 草加市カヌー協会 / やなせ川いかだラリー実 行委員会)
④	活動部門(古郡建設株式会社 / Plus-R / 明治安田生命保険相互会社 埼玉本部)
⑤	魅力発信部門
⑥	魅力発信部門
⑦	魅力発信部門
⑧	川の国貢献賞
⑨	リバサポ・クエスト
⑩	リバサポの紹介

■発表団体一覧

《ポスタータイトル・説明者・概要》

No.	テーマ	活動場所	団体名	ポスターのタイトル	説明者氏名
⑪	水質	県東	獨協大学米山ゼミ	獨協大学の伝右川再生に向けた活動	島田 隼人
「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」は、伝右川を川に入って遊ぶことのできる川に再生させることを目標に活動している。本プロジェクトは2014年から始まり、今年で10周年を迎える。そこで、10年間で取り組んできたプロジェクト活動を展示とともに紹介する。					
⑫	水質	全県	埼玉県環境科学国際センター	県内河川における異常水質事故の発生状況	柿本 貴志
埼玉県に関連する公共用水域で発生した異常水質事故について現状分析した結果を報告する。					
⑬	水質	県外	千葉工業大学文化会環境科学研究会	千葉県西印旛沼における水質調査の報告(2012~2024年)	岡野恵拓、野口直哉、村上和仁
千葉工業大学環境科学研究会では西印旛沼における水質調査を10年以上行ってきた。今回の発表では最近の印旛沼の様子や、2012年から2024年の間での水質の経年変化や、水質改善策などについて紹介する。					
⑭	水質	県東	草加市カヌー協会	活動約10年の回収ゴミの累計データと水質調査結果	遠藤 素子
NPO法人草加市カヌー協会はカヌーを用いて綾瀬川の美化活動に務め、水質調査も行っている。今までのデータをまとめて発表する。					
⑮	水質	県東	杉戸高等学校理科部	大落古利根川の水質調査ver2	埼玉県立杉戸高等学校理科部
通学路途中にある大落古利根川に対して季節や気候による水質、水量の変化に興味を持ち、調査を実施している。					
⑯	水質	県外	香川大学創造工学部吉田研究室	魚骨由来の吸着材を用いたタンパク質の吸着	吉田 秀典
本団体では、水産加工の際に大量に廃棄処分される魚骨の再利用を目的とし、魚骨を焼成することによって魚骨由来の吸着材(FbA)を製造している。今般は、FbAを用いてタンパク質の吸着を試みた結果について発表する。					
⑰	水質	全県	荒川クリーンエイドフォーラム	荒川クリーンエイド2024	荒川クリーンエイドフォーラム
まだコロナの「第11波」の中と言われながらも、荒川クリーンエイド埼玉関連会場は徐々に元気を取り戻しつつあります。そんな会場の多彩な表情をご紹介します。					
⑱	水質	県南	荒川夢クラブ	子供たちは水辺に輝いて	荒川夢クラブ
荒川本流、水系支流の川で小中学生、高校生や大学生が川のゴミ拾い、外来種駆除、水質検査、自然観察や体験活動などをがんばっています。水辺に子供たちの笑顔がはじけています。					
⑲	水質	全県	埼玉県環境科学国際センター	埼玉県環境科学国際センター水環境担当の活動紹介	埼玉県環境科学国際センター
埼玉県環境科学国際センターは、学習施設と研究所が一体となった環境科学の中核機関です。当センターの環境学習に関する講座やイベントの紹介、水環境に関する調査研究事例の紹介を行います。					
⑳	生物	全県	彩の国環境大学修了生の会	水辺の自然観察会&水質調査学習活動	彩の国環境大学修了生の会
当団体は県主催の「彩の国環境大学」修了生の有志が1998年設立以来、特に水辺の生物多様性(自然観察会での生き物調査&自然体験学習等)及び水質調査学習など会員が学んだ知識や経験を活かした環境活動の取り組みを紹介します。					
㉑	生物	県南	山室湧水路の清流保全プロジェクト	ホトケドジョウ保全活動	守山 義一
①水害対策工事と川の生きものとの情報共有。 ②県河川担当から市町の河川担当への情報提供、河川管理優先から、生態系保全の考え方の動向について。 ③県レッドデータブック動物編掲載魚類への保全に関する県の担当部署の明確化。					
㉒	生物	県北	城西大学理学部化学科環境生命化学研究室	環境DNAメタバーコーディング手法を用いた東秩父村の魚類相調査	内田 葵
本研究室では、環境DNA分析を用いて水圏生物の研究を行っている。本発表では、環境DNAメタバーコーディング手法を用いて東秩父村の河川の魚類相調査を行ったので、その結果について報告する。					
㉓	生物	県西	城西大学理学部化学科環境生命化学研究室	環境DNAメタバーコーディング手法を用いた滑川町の谷津沼の魚類相調査	野口 大作
本研究室では、環境DNA分析を用いて水圏生物の研究を行っている。本発表では、環境DNAメタバーコーディング手法を用いて滑川町の谷津沼の魚類相調査を行ったので、その結果について報告する。					

■発表団体一覧

《ポスタータイトル・説明者・概要》

No.	テーマ	活動場所	団体名	ポスターのタイトル	説明者氏名
②④	生物	県西	城西大学理学部化学科環境生命化学研究室	ホトケドジョウ生息地のモニタリングに向けた採水時期による検出感度の比較	野口 彩名
本研究室では、環境DNA分析を用いて水圏生物の研究を行っている。 本発表では、ホトケドジョウ生息地におけるモニタリングの確立を念頭に、採水時期による本種環境DNAの検出感度の比較を行ったので、その結果について報告する。					
②⑤	生物	県西	川の博物館	越辺川支流児沢の水生生物調査	藤田 宏之
越辺川支流の児沢（東松山市岩殿）で水生生物調査を実施したので報告いたします。					
②⑥	生物	全県	浦和実業学園中学校・高等学校 生物部	埼玉県内の在来種系統のドジョウと外来種系統のドジョウの分布調査	河端 優太
埼玉県内に生息する在来種系統のドジョウと外来種系統のドジョウの分布には傾向がみられる。その理由について、考察を進めた。					
②⑦	生物	県南	黒目川に親しむ会	黒目川に親しむ会の活動 ～ザリガニ供養と川耕し～	野口 龍太
黒目川に親しむ会の活動として、昨年実施した川祭りでのザリガニ供養と川耕しを中心に紹介する。					
②⑧	生物	県外	千葉工業大学 分子生態工学研究室	九十九里・房総半島南部における生物指標に着目した生態系解析評価	石川 蘭
生物指標は地域の環境特性を反映するため、地域ごとの生態系の違いを考慮した評価ができる。また、化学的水質評価と異なり、比較的長期の環境変動を反映するため、その間の河川環境を総合的に評価できる。本研究では、生物的水質評価として、付着珪藻（生産者）・ペントス（消費者）を採取し、九十九里（真亀川・南白亀川）および房総半島南部（川尻川・瀬戸川）を流下する河川の環境評価と千葉県河川環境マップを作成することを目的として、多変量解析（CCA）を活用した河川環境評価を行った。					
②⑨	生物	全県	川越女子高等学校生物部	川越女子高校生物部の活動紹介	加瀬 輪
川越女子高校生物部の活動を紹介します。（カワリヌマエビ属、ヌカエビの調査研究・外来種問題啓発活動の実践・高校生研究グループチームアライグマとしての活動・外来種希少種かるたの紹介など）					
③⑩	生物	県西	ホトケドジョウ調査会	越辺川流域に生き残ったホトケドジョウ	稲垣 喜弘
ホトケドジョウとはどんな魚で当調査会がなぜ調査をおこなったか、また調査の結果の紹介と保全に向けた提言を発表する。					
③⑪	生物	県北	熊谷市ムサントミヨをまもる会	世界に熊谷だけに生き残った「キセキ」の魚 ムサントミヨ	熊谷市ムサントミヨをまもる会
世界に熊谷市だけに生息している奇跡の魚ムサントミヨ地区内3校の活動状況 ※今生きる子供達に未来につなげる学習					
③⑫	生物	県南	シモゾノ学園大宮国際動物専門学校	2024年度ムサントミヨの保全活動と繁殖結果の報告	大宮国際動物専門学校 国際海洋・飼育学科
①当校はムサントミヨをまもる会と連携し、ムサントミヨ生息地の保全活動を行っている。 ②ムサントミヨの種の保全を目的に校内で飼育と繁殖に取り組んでおり、“水槽設備内”での“継代”飼育に成功した。					
③⑬	生物	県東	栄東中学・高等学校 理科研究部	水温上昇および水質の変動が河川生態系に与える影響とその将来展望 ―芝川を事例として	古里 優磨
2024年7月下旬に、芝川の上流～下流の1地点において水質調査を、上記の地点のうち1地点（第七調節池）において生息生物調査を実施した。水温上昇および水質の変動が河川生態系に与える影響を考察するとともに、将来の展望を考える。					
③⑭	生物	県外	埼玉県環境科学国際センター、国立環境研究所、海辺つくり研究会、国土技術政策総合研究所、神奈川大学、理化学研究所、東京都環境科学研究所	沿岸環境・生態系デジタルツインに関するプロジェクト研究の紹介	埼玉県環境科学国際センター 見島伊織
環境省の環境研究総合推進費課題として「沿岸環境・生態系デジタルツインの開発と実践」と題した共同研究を進めています。本研究の内容について紹介いたします。					
③⑮	生物	県西	埼玉県環境科学国際センター	令和6年度 河川基金助成事業「水生生物カードゲームで深める河川体験学習の普及」	田中 仁志
令和6年8月18日（日）～19日（月）の2日間、埼玉県東松山市で川の学習イベントを開催した。このイベントは、「生き物と水の汚れの関係を知って、川を守ろう、親しもう」をテーマに行った。その内容を報告する。					
③⑯	生物	県東	特定非営利活動法人越谷ふるさとプロジェクト	子ども自然体験バスツアー～ムサントミヨとムジナモに会いに行こう～	特定非営利活動法人越谷ふるさとプロジェクト
水と緑に関わる活動を続けている団体です。 令和6年7月に、越谷市と共催で、越谷市内在住の小学生を対象に、「元荒川ムサントミヨ生息地・保護センター」と「宝蔵寺沼・さいたま水族館」を訪れました					

■発表団体一覧

《ポスタータイトル・説明者・概要》

No.	テーマ	活動場所	団体名	ポスターのタイトル	説明者氏名
③⑦	文化	県南	新河岸川広域景観づくり連絡会	新河岸川で繋がる景観づくり	新河岸川広域景観づくり連絡会
1. 川沿いで活動している、川越から和光までの6市の市民団体が川の環境づくり、景観づくりの活動を紹介する。 2. 各地の団体が連携し、講演会、散策、川掃除、イベントを企画。マップづくりなど連絡会の活動、交流を発表する。					
③⑧	文化	全県	荒川流域ネットワーク	荒川流域ネットワークの活動紹介	鈴木 勝行
荒川流域ネットワークは1995年の創設以来、荒川水系での一斉水質調査、遡上環境の改善活動、伝統的漁法の体験事業などを実施してきた。それらの活動を紹介する。					
③⑨	文化	県外	株式会社Symphony Innovations	PORT(=港)プロジェクト	株式会社Symphony Innovations
株式会社Symphony Innovationsが手がける「PORTプロジェクト」が提供するサービスの紹介。 1. セカンドキャリア・サードキャリアの「ステージ」づくり 2. 「感じて動く」テーマを持ったイベントづくり 3. 多彩な「才能×キャリア」紹介 4. 「安全を最優先する文化」づくり					
④⑩	その他	県外	「川の日」ワークショップ関東大会実行委員会	川仲間になろう！川の日ワークショップ関東大会	堺 かなえ
本大会は、全国の『いい川・いい川づくりワークショップ』とも連携し、川や水辺の活動に取り組む多様な世代、多様な立場のひとびとの情報共有と、流域や地域を越えた交流、とくに、大学生や高校生、中学生など、若い世代の活動を発表、応援する場として開催します。川や流域だけでなく、源流域、海、用水、池沼、干潟、里山、田んぼ、水循環など、多様な水辺、テーマの取り組みを募集します。日頃の活動を発表したい、「いい川」づくりの知恵や力を共有したい、若い世代の取り組みを応援したい、仲間をつくりたい、みんなで作る大会です。					
④⑪	その他	県南	黒目川の景観を考える会	黒目川の景観づくり	小林 一己
2006年から、黒目川朝霞区間の河川用地に、サクラを中心に雑木(ぞうき)100本以上を植え、メンテナンスをしてきました。河川管理用通路(遊歩道)のペットのマネーキャンペーンで、散歩ペットふんが激減しました。現在、朝霞市に河畔林の延長を求めています。地元市民と協力し、一昨年、今年と、川沿いの河畔林用地の占有協定を結んでいます。					
④⑫	その他	県南	笹目川の環境を守る会	笹目川の環境を守る会の活動	笹目川の環境を守る会
笹目川の環境を守る会は平成17年の設立以来、笹目川の清掃活動、水質調査、生き物調べ等自然観察会の開催、環境保全意識の啓発活動に取り組んでいる。活動のあらましを紹介する。					
④⑬	その他	全県	戸田の川を考える会	水道の水はどこからくるの	大石 昌男
水道の水について					
④⑭	その他	県南	綾瀬川を愛する会	川の清掃活動	森中 定治
綾瀬川の川口市域の清掃整備活動					

■ポスターセッションの様子

